

平成 26 年度 第 2 回 学校評議委員会 概要

平成 26 年 12 月 18 日(木) 10:00~11:40

神戸市立桜の宮小学校 会議室

1. 出席者

松本 茂伸(桜の宮自治連合協議会会長)	相川 光一(桜の宮ふれあいのまちづくり協議会会長)
吉田ひとみ(桜の宮小学校PTA会長)	古川 妙子(桜の宮小学校・PTA顧問)
安東 幸江(桜の宮小学校PTA副会長)	田中利恵子(桜の宮小学校PTA副会長)
板垣 章三(桜の宮中学校校長)	堀家 豊 (桜の宮児童館館長)
三海 弘晶(桜の宮小学校校長)	栗本 純也(桜の宮小学校教頭)
田邊 孝子(桜の宮小学校主幹教諭)	池田 一男(桜の宮小学校主幹教諭)

【敬称略】

2. 次第

- ・はじめの挨拶 (三海校長)
- ・自己紹介
- ・平成 26 年度桜の宮小学校自己評価 (前期) について
- ・桜の宮小学校全国学力状況調査結果及び改善について
- ・質疑応答
- ・地域の子どもの様子について
- ・おわりの挨拶 (三海校長)

3. 平成 26 年度桜の宮小学校自己評価 (前期) について【資料参照】

4. 桜の宮小学校全国学力状況調査結果及び改善について【学校だより 11 月臨時号参照】

5. 質疑応答

- ・新たに今年から行っている年間を通じたスポ協活動について
→競技によって好き嫌いがあるが、参加していい顔をして子どもは帰ってきている。
団体競技で、子どもたちが協力し合い、熱くなれるところがいい。
陸上の専門の方の指導を受けて、子どもが自信をつけて帰ってきた。
5 分間ジョギングもしているが、子どもたちに頑張らせることも大切で必要なことだと思う。
運動が苦手な子どもも、「まずは参加してみよう」という教師の声掛けがあり、参加できた。
老人会や自治会などに声をかけ、地域の人材が集まれば、とてもよい。
- ・定期の以外の家庭訪問について
→比較的時間のある保護者にとっては、担任とのつながりができ、安心できる。
仕事等で忙しい保護者にとっては、どうか。全員がウエルカムではない。
家庭訪問には抵抗感もある。「なにかしたのかな？」と構えてしまう。
子どものいいことを電話でタイムリーに知らせてくれる担任がいて、うれしい。

・コミュニケーション力について

→挨拶の元気な子どもは、意欲にあふれている。そんな子どもになってほしい。

一言二言だけの言葉でけんかになる。教師が言葉をフォローして初めて思いを分かり合える。

目と目を合わせて、話す子どもになってほしい。

発言力とともに書く力も大切である。得意な方を伸ばしていくのがいいのではないか。

社会はひとりでは生きていけない。つながるためにも、会話力・対話力が必要である。

学校では、一人一人が話し、聞くことができるペア活動・グループ活動を取り入れている。

言葉の力をつけるためにも、読書が大切だと思う。

シリーズものの図書を読みふけている子どもがいる。家庭でも内容について話題になる。そこか興味が広がって、さらに学習が深まっている。

最近子どもたちはあまり進んで読まないが、伝記物には、変わらぬよさがあるので薦めている。

小学校の読書活動・朝の学習（計算,漢字）が中学校にもつながっていて、学力が定着している。

読書活動のつながりで言うと、百人一首などにも意欲的である。

高校入試という枠の中では、推薦入試で書く力と話す力が問われる。長文を書く力はすぐにはつかない。継続的な取り組みが大切である。

・携帯・スマホ・タブレットについて

→ゲーム機でもネットにつながり、交流している。犯罪に巻き込まれるのはこわい。

防犯教室でも学んでいるが、ネットについての正しい知識を子どもたちに持たせてほしい。

スマホは、制限をかけて、安全を確保している。

LINEなどで、どんなやりとりをしているのかは、はっきりとはわからない。

契約者が保護者であるなら、携帯やスマホの中にある情報を保護者が見てもよいというのが警察や学校の立場である。